

## ダイフクヒ

Areca Pericarp

ARECAE PERICARPIUM

犬腹皮

本品はビンロウ *Areca catechu* Linné 又はダイフクビンロウ *Areca dicksonii* Roxburgh (*Palmae*) の果皮である。

**生薬の性状** 本品は紡錘形～長楕円体で、通例、縦割りされている。長さ 3 ～ 6 cm、径 2.5 ～ 4 cm、厚さ 0.2 ～ 0.8 cm である。外面は淡灰褐色～暗褐色を呈し、縦じわがあり、内面は黄褐色～暗褐色を呈し、ややつやがあり、通例、細かい縦じわがある。断面は著しく繊維性で、横切面は淡黄褐色を呈し、ルーペ視するとき、繊維群が淡褐色～暗褐色の点として認められる。

本品はわずかに特異なおいがあり、味はほとんどない。

**確認試験** 本品の粉末 2.0 g に水 30 mL 及び塩酸 3 滴を加え、水浴上で時々振り混ぜながら 5 分間加温した後、ろ過する。ろ液 0.5 mL に水酸化カルシウム試液 2.5 mL を加えるとき、液は黄赤色～橙黄色を呈し、放置するとき、黄赤色～橙黄色の綿状沈殿を生じる。

**乾燥減量** (5.01) 11.0%以下 (6 時間)。

**灰分** (5.01) 6.0%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## タラコンピ

Aralia Elata Root Bark

ARALIAE RADICIS CORTEX

タラ根皮

本品はタラノキ *Aralia elata* Seemann (*Araliaceae*) の根皮である。

**生薬の性状** 本品は管状～半管状の皮片で、厚さ 1.0 ～ 2.5 mm である。外面は淡褐色で、周皮は細かいりん片状に  
はがれやすい。内面は淡褐色を呈する。質はもろく、折りやすい。

本品は弱いにおいがあり、味はわずかに収れん性である。

### 確認試験

(1) 本品の粉末 0.1 g に水 10 mL を加え、激しく振り混ぜるとき、持続性の微細な泡を生じる。

(2) 本品の粉末 0.2 g に無水酢酸 2 mL を加え、水浴上で 2 分間加温した後、ろ過する。ろ液に硫酸 0.5 mL を穏やかに加えるとき、境界面は赤褐色を呈する。

**乾燥減量** (5.01) 13.0 %以下 (6 時間)。

**灰分** (5.01) 9.0 %以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 2.0 %以下。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 17.0 %以上。

**貯法** 容器 密閉容器。

## チクジョ

Bamboo Culm

BAMBUSAE CAULIS

竹筴 竹茹

本品は *Bambusa tuldoidea* Munro, ハチク *Phyllostachys nigra* Munro var. *henonis* Stapf ex Rendle 又はマダケ *Phyllostachys bambusoides* Siebold et Zuccarini (Gramineae) の稈の内層である。

**生薬の性状** 本品は薄い带状で、厚さ 0.5 ~ 3 mm, 淡緑褐色又は淡黄白色~灰白色を呈する。しばしば球状又は束状に整形されている。質は軽く繊維性である。

本品はにおいがなく、味はほとんどない。

### 確認試験

(1) 本品の粉末 0.5 g にアセトン 10 mL を加え、水浴上で振り混ぜながら 2 分間加温した後、ろ過する。ろ液を蒸発乾固し、残留物に無水酢酸 0.5 mL を加えて溶かし、硫酸 1 滴を加えるとき、液は暗緑褐色~褐色を呈する。

(2) 本品の粉末 0.5 g に水 10 mL を加え、水浴上で振り混ぜながら 2 分間加温した後、ろ過する。ろ液 1 mL にフェノール溶液 (1 → 20) 1 mL を加えてよく振り混ぜた後、硫酸 2 mL を加えて振り混ぜるとき、液は淡褐色~赤褐色を呈する。

**乾燥減量** (5.01) 10.0 %以下 (6 時間)

**灰分** (5.01) 3.0 %以下

**酸不溶性灰分** (5.01) 1.5 %以下

**貯法** 容器 密閉容器

## チンピ末

Powdered Citrus Unshiu Peel

CITRI UNSHIU PERCARPIUM PULVERATUM

陳皮末

本品は日局チンピを粉末としたものである。

本品の定量の規格は、日局チンピの規格を準用する。

**生薬の性状** 本品は淡灰黄色～黄褐色を呈し、におい及び味は日局チンピの規格を準用する。

本品を鏡検(5.01)するとき、やや黄色を帯びた柔組織及び無色の柔組織の破片、多角形の表皮細胞からなる表皮の破片、径10～30 $\mu\text{m}$ のらせん紋道管、環紋道管、階紋道管、網紋道管、孔紋道管の破片、丸みを帯びた黄色の塊状物、シュウ酸カルシウムの単晶を認める。シュウ酸カルシウムの単晶は、通例径5～30 $\mu\text{m}$ で、まれに結晶細胞列となる。

**確認試験** 日局チンピの確認試験を準用する。

**純度試験** 総BHCの量及び総DDTの量(5.01) 日局チンピの純度試験を準用する。

**乾燥減量(5.01)** 日局チンピの乾燥減量を準用する。

**灰分(5.01)** 日局チンピの灰分を準用する。

**エキス含量(5.01)** 日局チンピのエキス含量を準用する。

**定量法** 日局チンピの定量法を準用する。

**貯法 容器** 気密容器。

## テンナンショウ

Arisaema Tuber

ARISAEMATIS TUBER

天南星

本品はマイヅルテンナンショウ *Arisaema heterophyllum* Blume, *Arisaema erubescens* Schott, *Arisaema amurense* Maximowicz 又はその他同属の近縁植物 (*Araceae*) のコルク層を除いた塊茎である。

**生薬の性状** 本品はやや偏圧された球形～不整形を呈し、径 0.7 ～ 3.5 cm、高さ 0.7 ～ 2 cm である。外面は類白色又は淡灰褐色～淡褐色を呈し、上部には茎の跡がくぼみとなり、その周辺には根の跡がくぼんだ細点となっている。質は堅い。切面は類白色、粉性である。

本品はほとんどにおいがなく、味は初め緩和で、後にえぐい。

本品の横切片を鏡検 (5.01) するとき、主としてでんぷん粒を充満した柔細胞からなり、粘液道及びシュウ酸カルシウムの束晶を含む粘液細胞を認める。

### 確認試験

- (1) 本品の粉末 0.5 g に水 10 mL を加え、激しく振り混ぜるとき、持続性の微細な泡を生じる。
- (2) 本品の粉末 0.2 g に無水酢酸 2 mL を加え、水浴上で 2 分間加温した後、ろ過する。ろ液に硫酸 0.5 mL を穏やかに加えるとき、境界面は淡褐色を呈する。
- (3) 本品の切面に希ヨウ素試液を滴加するとき、暗青紫色を呈する。

**乾燥減量** (5.01) 13.0%以下 (6 時間)。

**灰分** (5.01) 5.0%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## トウシンソウ

Common Rush

JUNCI HERBA

灯心草 燈心草

本品はイ *Juncus effusus* Linné (*Juncaceae*) の 1) 地上部で、ときに 2) 茎の髄だけのもの (トウシン) がある。

### 生薬の性状

1) 地上部 本品は、通例、茎を横切したもので細い円柱形を呈し、径 1 ~ 3 mm である。外面は淡黄緑色~褐色で、多数の縦線がある。茎の横切面をルーペ視するとき、ほぼ円形で、中央部は海綿状で白色を呈し、周辺部は繊維性で淡黄緑色~淡褐色を呈する。

本品はわずかににおいがあり、味はほとんどない。

本品の茎の横切片を鏡検 (5.01) するとき、表皮細胞は 1 層でクチクラにおおわれ、隆起部の表皮下のみに繊維束が発達し、それ以外は 2 ~ 3 細胞層の柔組織からなる。多数の並立維管束が 2 ~ 3 輪の環状に配列し、内側の維管束ほど大きい。師部及び木部の外側に繊維からなる維管束しょうが発達し、しばしば維管束を取り囲む。通例、維管束しょうの周辺に存在する柔細胞のみが残り、維管束間の架橋となる。髄は 4 ~ 8 方向に突出した星形状の柔細胞からなり、それらが連結して網状構造となる。細胞の接合部分では細胞壁が数珠状に肥厚する。

2) 茎の髄 本品は細い円柱形を呈し、径 1 ~ 3 mm である。外面は白色~黄白色で縦溝があり、柔らかく、引っ張ると容易に切れる。断面は白色~黄白色で、海綿状を呈する。

本品はにおい及び味はほとんどない。

本品の横切片を鏡検 (5.01) するとき、4 ~ 8 方向に突出した星形状の柔細胞からなり、それらが連結して網状構造となる。細胞の接合部分では細胞壁が数珠状に肥厚する。

**確認試験** 本品の粉末 1.0 g にメタノール 20 mL を加え、10 分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液の溶媒を留去し、残留物をメタノール 1 mL に溶かし、試料溶液とする。別に薄層クロマトグラフィー用ルテオリン 1 mg をメタノール 1 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 10  $\mu$ L ずつを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/2-ブタノン/水/ギ酸混液 (25:3:1:1) を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線 (主波長 365 nm) を照射するとき、 $R_f$  値 0.4 付近に青白色の蛍光を発するスポットを認める (ルテオリン 3',5-ジメチルエーテル)。また、塩化鉄(III)・メタノール試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得た数個のスポットのうち 1 個のスポットは、標準溶液から得た暗緑色のスポットと色調及び  $R_f$  値が等しい。

**乾燥減量** (5.01) 13.0%以下 (6 時間)。

**灰分** (5.01) 7.0%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 1.5%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## トウドクカツ

Angelica Pubescens Root

ANGELICAE PUBESCENTIS RADIX

唐独活 トウドクカツ

本品はシシウド *Angelica pubescens* Maximowicz 又は *Angelica bisserata* Shan et Yuan (*Umbelliferae*) の根である。

**生薬の性状** 本品は短い主根から長い根を分枝してほぼ紡錘状を呈し、長さ 10 ~ 20 cm、外面は褐色～暗褐色である。根頭部には密に隆起した輪節があり、またわずかに茎の残基及び葉しょうを残存するものがある。根には縦じわ及び横長に隆起した多数の細根の跡があり、質はやや柔軟である。横切面をルーペ視するとき、淡褐色～暗褐色を呈し、暗褐色の樹脂道がほぼ同心性に配列する。

本品は特異なおいがあり、味は苦くて辛い。

**確認試験** 本品の粉末 0.2 g にエタノール 5 mL を加え、時々振り混ぜながら 5 分間放置した後、ろ過する。ろ液に紫外線（主波長 365 nm）を照射するとき、液は青色～青紫色の蛍光を発する。

**純度試験** 本品の横切片を鏡検〈5.01〉するとき、コルク石細胞及びシュウ酸カルシウムの集晶を認めない。

**乾燥減量**〈5.01〉 15.0%以下（6時間）。

**灰分**〈5.01〉 9.0%以下。

**酸不溶性灰分**〈5.01〉 1.0%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## トウヒ末

Powdered Bitter Orange Peel

AURANTII PERCARPIUM PULVERATUM

橙皮末

本品は日局トウヒを粉末としたものである。

**生薬の性状** 本品は淡黄褐色～黄褐色を呈し、におい及び味は日局トウヒの規格を準用する。

本品を鏡検(5.01)するとき、やや黄色を帯びた柔組織及び無色の柔組織の破片、多角形の表皮細胞からなる表皮の破片、径10～30 $\mu\text{m}$ のらせん紋道管、環紋道管、階紋道管、網紋道管、孔紋道管の破片、シュウ酸カルシウムの単晶を認める。シュウ酸カルシウムの単晶は、通例径5～30 $\mu\text{m}$ で、まれに結晶細胞列となる。

**確認試験** 日局トウヒの確認試験を準用する。

**乾燥減量** (5.01) 日局トウヒの乾燥減量を準用する。

**灰分** (5.01) 日局トウヒの灰分を準用する。

**酸不溶性灰分** (5.01) 日局トウヒの酸不溶性灰分を準用する。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 25.0%以上。

**貯法** 容器 気密容器。



## ドベッコウ

Soft Shell Turtle Carapace

AMYDAE TESTUDO

土別甲

本品はスッポン *Amyda japonica* Temmink et Schlegel 又はシナスッポン *Amyda sinensis* Wiegmann (*Trionychidae*) の背甲である。

**生薬の性状** 本品は不整皿状に湾曲した広楕円形～卵円形で、長さ 10 ～ 20 cm, 幅 7 ～ 15 cm, 厚さ 1.5 ～ 3 mm, 外面は黒褐色～黒緑色で、中央部はわずかに骨節が隆起し、両側に肋骨様の線紋と細かいしわがある。内面は類白色で中央に隆起した脊椎骨があり、肋骨は 8 対で、左右に突出する。角質で堅く、折りやすい。

本品は特異なおいがあり、味はほとんどない。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ナンテンジツ

Nandina Fruit

NANDINAE FRUCTUS

南天実 天竺子

本品はシロミナンテン(シロナンテン) *Nandina domestica* Thunberg forma *leucocarpa* Makino 又はナンテン *Nandina domestica* Thunberg (*Berberidaceae*) の果実である。

**生薬の性状** 本品は球形で、径 7 ~ 9 mm、外面は淡黄色~淡灰褐色又は帯赤褐色を呈する。上部には突起状の花柱の残基があり、下部には点状の果柄の跡がある。果皮は薄く破碎しやすく、内部には 2 ~ 3 個の堅い種子がある。本品はほとんどにおいがなく、味はやや苦い。

**確認試験** 本品の粉末 1 g に希酢酸 10 mL を加え、水浴上で 5 分間加熱した後、冷後、ろ過する。ろ液 1 滴をろ紙上に滴加し、風乾後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を噴霧して放置するとき、黄赤色を呈する。

**純度試験 異物 (5.01)** 本品は果柄及びその他の異物 1.0 % 以上を含まない。

**灰分 (5.01)** 5.0 % 以下。

**貯法 容器** 密閉容器。

## バイモ末

Powdered Fritillaria Bulb

FRITILLARIAE BULBUS PULVERATUS

貝母末

本品は日局バイモを粉末としたものである。

**生薬の性状** 本品は白色～淡黄褐色を呈し、特異な弱いにおいがあり、味は苦い。

本品を鏡検〈5.01〉するとき、でんぷん粒及びシュウ酸カルシウムの単晶を含む柔細胞並びにそれらの破片、径10～40 μmの主らせん紋道管の破片を認める。でんぷん粒は主に単粒で、径5～50 μm、層紋が明瞭で、長卵形～卵形又は三角状卵形、まれに2～3個からなる複粒もある。シュウ酸カルシウムの単晶は径2～30 μmである。

**確認試験** 日局バイモの確認試験を準用する。

**純度試験**

- (1) 重金属〈1.07〉 日局バイモの純度試験を準用する。
- (2) ヒ素〈1.11〉 日局バイモの純度試験を準用する。

**乾燥減量**〈5.01〉 日局バイモの乾燥減量を準用する。

**灰分**〈5.01〉 日局バイモの灰分を準用する。

**酸不溶性灰分**〈5.01〉 日局バイモの酸不溶性灰分を準用する。

**エキス含量**〈5.01〉 日局バイモのエキス含量を準用する。

**貯法** 容器 気密容器。

## ハトムギ

Coix Fruit with Involucre

COICIS FRUCTUS CUM INVOLUCRIS

本品はハトムギ *Coix lacryma-jobi* Linné var. *mayuen* Stapf (*Gramineae*) の果実及び苞しょうである。

**生薬の性状** 本品はほぼ卵球形を呈し、長さ7～14mm、幅5～9mm、厚さ4～8mmである。外面は黒褐色～灰褐色を呈し、つやがあり、細かい縦じまを認める。上端はややとがり、その付近に1個の斜めの孔があり、他端には果柄の跡がある。苞しょうは爪で破碎することができる。中に雄性小穂の花柄、膜質のりん片、2個の退化した小穂及び淡灰褐色～淡黄色でつやのある膜質の5枚の穎に包まれた1個の果実がある。果実は淡褐色～赤褐色で、質は硬い。

本品はほとんどにおいがなく、苞しょうは味がなく、果実はわずかに甘く、かめば歯間に粘着する。

本品を鏡検(5.01)するとき、苞しょうの横切片では、背軸側最外層は表皮からなり、その内側に厚壁組織が認められる。厚壁組織中の内側の部分には繊維束を伴う維管束が散在する。厚壁組織に続いて内側に横走する繊維が認められ、向軸側最外層は表皮からなる。果実中央部の横切片では、表面最外部には、薄壁性の果皮及び種皮が認められる。くぼみのある腹面に沿って胚盤があり、中央に幼芽しょう又は胚軸が見られる。背面側には胚盤を包む形で胚乳があり、胚乳の柔細胞にはでんぷん粒が含まれる。

**純度試験** 本品20個について、横切し、希釈したヨウ素試液(1→10)に5秒間浸漬した後、取出し、余分な試液を拭き取り、切断面を観察するとき、暗赤褐色を呈し、青紫色を呈するものが6個以内である。青紫色を呈するものが7個又は8個の場合、更に40個の試料について同様に試験を行い、青紫色を呈するものが12個以内の場合、適合とする。

**乾燥減量** (5.01) 14.0%以下(6時間)。

**灰分** (5.01) 8.0%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ヒシノミ

Water Chestnut

TRAPAE FRUCTUS

菱実

本品はヒシ *Trapa japonica* Flerov, ヒメビシ *Trapa insisa* Siebold et Zuccarini 又はメビシ *Trapa japonica* Flerov var. *rubeola* Ohwi (*Trapaceae*) の果実である。

**生薬の性状** 本品はやや偏平な倒三角形の核果で、長さ 3 ～ 6 cm, 2 又は 4 個の鋭いとげ状の突起がある。外面は黒褐色を呈する。果皮は堅く、内部に 1 個の種子がある。

本品はほとんどにおいがなく、砕くとき、内部はわずかに特異な味がある。

**確認試験** 本品の粉末 0.5 g に無水酢酸 2 mL を加え、よく振り混ぜて 2 分間放置した後、ろ過する。ろ液に硫酸 1 mL を穏やかに加えるとき、境界面は赤褐色を呈し、上層は青緑色～緑色を呈する。

**乾燥減量** (5.0l) 15.0%以下 (6 時間)。

**灰分** (5.0l) 4.5%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ビヤツキョウサン

Stiff Silkworm

BOMBYX BATRYTICATUS

白僵蚕 白僵蚕 白姜蚕 白僵蚕

本品はビヤツキョウ菌 *Beauveria bassiana* Vuillemin (*Cordycepitaceae*) に感染して硬直したカイコガ *Bombyx mori* Linné (*Bombycidae*) の幼虫である。

**生薬の性状** 本品は、円柱形でところどころにくびれがあり、湾曲するものもある。長さ 2 ~ 5 cm, 径 0.3 ~ 1.0 cm である。外面は類白色~黄白色の粉で覆われており、折りやすく、中央部の折面は、光沢のある黒緑色~黒褐色を呈する。

本品は特異なおいがあり、味はやや塩辛い。

**確認試験** 本品の粉末 0.5 g にメタノール 10 mL を加え、10 分間振り混ぜ、又は超音波処理した後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液 10  $\mu$ L を薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にヘキサン/酢酸エチル混液 (7 : 3) を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、風乾する。これに紫外線 (主波長 365 nm) を照射するとき、 $R_f$  値 0.45 付近に青白色の蛍光を発するスポットを認める。

**乾燥減量 (5.01)** 13.0 % 以下 (6 時間)。

**灰分 (5.01)** 8.5 % 以下。

**酸不溶性灰分 (5.01)** 1.0 % 以下。

**エキス含量 (5.01)** 希エタノールエキス 18.0 % 以上。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ボウイ末

Powdered Sinomenium Stem and Rhizome

SINOMENI CAULIS RHIZOMA PULVERATUM

防已末

本品は日局ボウイを粉末としたものである。

**生薬の性状** 本品は淡褐色～暗褐色を呈し、におい及び味は日局ボウイの規格を準用する。

本品を鏡検〈5.01〉するとき、通例、円形～多角形を呈する著しく細胞壁の厚い石細胞、でんぷん粒及びシュウ酸カルシウムの小針晶、柔細胞並びにそれらの破片、径 20 ～ 160  $\mu\text{m}$  の網紋道管及び孔紋道管の破片、径 5 ～ 40  $\mu\text{m}$  の繊維又は繊維束の破片を認める。でんぷん粒は主に単粒で、径 3 ～ 10  $\mu\text{m}$  である。シュウ酸カルシウムの針晶は長さ 3 ～ 30  $\mu\text{m}$  である。

**確認試験** 日局ボウイの確認試験を準用する。

**乾燥減量** 〈5.01〉 11.0 %以下 (6 時間)。

**灰分** 〈5.01〉 日局ボウイの灰分を準用する。

**酸不溶性灰分** 〈5.01〉 日局ボウイの酸不溶性灰分を準用する。

**貯法** 容器 気密容器。

## ホップ

Hop Strobile

LUPULI STROBILUS

本品はホップ *Humulus lupulus* Linné (Moraceae) の成熟した球果状の果穂である。

**生薬の性状** 本品は広卵形～球形で、長さ 2 ～ 5 cm、径 2 ～ 3 cm、黄緑色又はは緑褐色を呈する。中央に穂状花序の軸があり、小花柄ごとに苞葉と小苞が付き、それらが重なって松かさ状を呈する。苞葉と小苞は花序の軸から脱落しやすい。苞葉は卵形、長さ 0.8 ～ 3 cm、幅 0.5 ～ 1 cm、膜質で、向軸面の脈が明瞭である。小苞は苞葉の内側にあり、卵形で、苞葉よりやや小さく、薄く、その基部でそう果を包む。苞葉、小苞の基部及びそう果に橙黄色～褐色の腺体が多数付着する。

本品は特異な芳香があり、味は苦い。

本品の苞葉と小苞の表面を鏡検 (5.01) するとき、表皮細胞の細胞壁は波状を呈し、腺体及び単細胞毛が認められ、柔組織中に径 30  $\mu$ m 以下のシュウ酸カルシウムの集晶が認められる。腺体は多細胞性で、頭部は杯状又は球状で径 100 ～ 250  $\mu$ m、分泌物を充満する。

**確認試験** 本品の粉末 1.0 g にメタノール 10 mL を加え、20 分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。

この液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液 10  $\mu$ L を薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/ヘキサン/酢酸(100)混液 (7:7:1) を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに水酸化カリウム・エタノール試液を均等に噴霧するとき、 $R_f$  値 0.4 付近に黄色のスポットを認める (キサントフォーム)。

### 純度試験

異物 (5.01) 本品は、茎、葉及びその他の異物 2 % 以上を含まない。

乾燥減量 (5.01) 15.0 % 以下 (6 時間)。

灰分 (5.01) 14.5 % 以下。

酸不溶性灰分 (5.01) 5.0 % 以下。

エキス含量 (5.01) 希エタノールエキス 20.0 % 以上。

貯法 容器 密閉容器。



## マオウ末

Powdered Ephedra Herb

EPHEDRAE HERBA PULVERATA

麻黄末

本品は日局マオウを粉末としたものである。  
本品の定量の規格は、日局マオウの規格を準用する。

**生薬の性状** 本品は淡灰緑色～暗褐色を呈し、におい及び味は日局マオウの規格を準用する。

本品を鏡検 (5.01) するとき、褐色及び無色の柔組織の破片、長方形の表皮細胞からなる表皮の破片、繊維、纖維群、通例径 5 ~ 25  $\mu\text{m}$  のらせん紋道管及び孔紋道管、ときに仮道管の破片を認める。また、シュウ酸カルシウムの単晶及び砂晶を認める。

**確認試験** 日局マオウの確認試験を準用する。

**灰分 (5.01)** 日局マオウの灰分を準用する。

**酸不溶性灰分 (5.01)** 日局マオウの酸不溶性灰分を準用する。

**定量法** 日局マオウの定量法を準用する。

**貯法 容器** 気密容器。

## マンケイシ

Shrub Chaste Tree Fruit

VITICIS FRUCTUS

蔓荆子 蔓荆子

本品はハマゴウ *Vitex rotundifolia* Linné filius 又はミツバハマゴウ *Vitex trifolia* Linné (*Verbenaceae*) の果実である。

**生薬の性状** 本品は球形～倒卵球形で、径3～7mm、外面は灰黒色～灰褐色を呈する。通例、下半は灰白色の薄いがくでおおわれ、短い果柄を残存することがある。果実の内部は4室に分かれ、各室に1個の種子がある。

本品は特異なおいがあり、味はわずかに辛い。

**確認試験** 本品の粉末0.5gにメタノール10mLを加えてよく振り混ぜた後、ろ過する。ろ液5mLにリボン状のマグネシウム0.1g及び塩酸0.3mLを加えて放置するとき、液は淡赤色～赤紫色を呈する。

### 純度試験

- (1) 果柄及び葉 本品は果柄及び葉4.0%以上を含まない。
- (2) 異物〈5.01〉 本品は果柄及び葉以外の異物1.0%以上を含まない。

**乾燥減量**〈5.01〉 12.0%以下(6時間)。

**灰分**〈5.01〉 9.0%以下。

**酸不溶性灰分**〈5.01〉 3.5%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## モッカ

Chaenomeles Fruit

CHAENOMELIS FRUCTUS

木瓜

本品は 1) カリン *Chaenomeles sinensis* Koehne の偽果（光皮モッカ）又は 2) ボケ *Chaenomeles speciosa* Nakai (*Rosaceae*) の偽果（皺皮モッカ）である。

### 生薬の性状

1) 光皮モッカ 本品は楕円体～卵形体を、通例、縦割りした形を呈し、長さ 6.5 ～ 10 cm、幅 3.5 ～ 5.0 cm、しばしば横切したものもある。外面は赤褐色～暗褐色を呈し、果肉の断面は赤褐色～黄褐色で顆粒状の斑点がある。果肉の厚さは 1 ～ 2 cm で、内部には隔壁があり、これに多数の種子が付くか、又はしばしば脱落して中空となる。種子は扁平なほぼしづく形で、長さ 0.5 ～ 1.0 cm、幅 0.2 ～ 0.5 cm、暗褐色を呈する。

本品は特異なおいがあり、酸味があり収れん性である。

本品の横切片を鏡検〈5.01〉するとき、最外層はクチクラでおおわれた表皮からなる。果肉には多数の石細胞があり、外辺部から中層部では単独又は不定形の石細胞群をなし、内辺部では更に大きな群となる。

2) 皺皮モッカ 本品は楕円体～卵形体を、通例、縦割りした形を呈し、長さ 4 ～ 9 cm、幅 2 ～ 5 cm、しばしば横切したものもある。外面は赤紫色～赤橙色を呈し、不規則な深い皺がある。果肉の断面は赤褐色～黄褐色で辺縁が縮んで内側に巻く。内部には隔壁があり、これに多数の種子が付くか、又はしばしば脱落して中空となる。種子は扁平な三角形で、長さ 0.5 ～ 1.0 cm、幅 0.2 ～ 0.5 cm、硬く、暗褐色を呈する。

本品は特異なおいがあり、酸味があり収れん性である。

本品の横切片を鏡検〈5.01〉するとき、最外層は厚いクチクラでおおわれた表皮からなる。果肉の外辺部には不定形の石細胞があり、内辺部には通例大きな石細胞群が見られるが、果肉の中層部には石細胞は認められない。

**確認試験** 本品の粉末 1g に水 10 mL を加え、水浴上で時々振り混ぜながら 10 分間加熱した後、ろ過する。ろ液に塩化鉄(III)試液 1 滴を加えるとき、液は汚緑色を呈する。

**乾燥減量** 〈5.01〉 12.0%以下 (6 時間)。

**灰分** 〈5.01〉 5.0%以下。

**エキス含量** 〈5.01〉 希エタノールエキス 18.0%以上。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ヨウバイヒ

Myrica Rubra Bark

MYRICAE CORTEX

楊梅皮

本品はヤマモモ *Myrica rubra* Siebold et Zuccarini (*Myricaceae*) の樹皮である。

**生薬の性状** 本品は巻き込んだ管状、半管状又は板状の皮片で、厚さ1～5mmである。外面は灰褐色を呈し、浅い縦の裂け目と縦列する小さな皮目があり、内面が暗褐色を呈し、なめらかである。折りやすく、折面は赤褐色粒状である。

本品はほとんどにおいがなく、味は渋くて苦い。

本品の横切片を鏡検(5.01)するとき、コルク層は多層のU字状に厚壁化したコルク石細胞からなり、一次皮部には石細胞群を、二次皮部には結晶細胞列を伴う繊維束がある。コルク石細胞及び石細胞中には褐色の内容物を、柔細胞中にはでんぷん粒及び褐色の内容物を含む。

**確認試験** 本品の粉末0.1gにメタノール10mLを加え、水浴上で時々振り混ぜながら5分間加温し、冷後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー(2.03)により試験を行う。試料溶液5μLを薄層クロマトグラフィー用シリカゲル(蛍光剤入り)を用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/メタノール/水/ギ酸混液(12:2:1:1)を展開溶媒として約7cm展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長254nm)を照射するとき、 $R_f$ 値0.55付近に主スポットを認める(ミリシトリン)。

**乾燥減量** (5.01) 13.0%以下(6時間)。

**灰分** (5.01) 4.0%以下。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 35.0%以上。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ヨウバイヒ末

Powdered Myrica Rubra Bark

MYRICAE CORTEX PULVERATUS

楊梅皮末

本品は局外生規 2012 ヨウバイヒを粉末にしたものである。

**生薬の性状** 本品は灰赤褐色を呈し、ほとんどにおいがなく、鼻粘膜を刺激する。味は渋くて苦い。

本品を鏡検 (5.01) するとき、石細胞、厚壁細胞、繊維、結晶細胞列、柔細胞、コルク細胞及びそれらの群並びにでんぷん粒を認める。石細胞は不整形で、長径 50 ~ 200  $\mu\text{m}$ 、細胞壁の厚さ 3 ~ 25  $\mu\text{m}$ 、孔紋及び層紋は明瞭である。厚壁細胞は多くの孔紋を認めるものと、認めないものがある。コルク細胞は U 字状に厚壁化する。通例、これらの細胞や柔細胞中に黄赤色の内容物を、また石細胞及び柔細胞中にはでんぷん粒を含む。繊維は細胞壁の厚さ 5 ~ 6  $\mu\text{m}$  で孔紋のあるものと細胞壁の厚さ約 2  $\mu\text{m}$  で斜めの壁孔の明らかなものがあり、前者はしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む結晶細胞列を伴う。でんぷん粒は径 4 ~ 7  $\mu\text{m}$  の単粒又は 2 ~ 3 個の複粒である。シュウ酸カルシウムの結晶は単晶及び砂晶からなり、単晶は径 10 ~ 300  $\mu\text{m}$  である。

**確認試験** 局外生規 2012 ヨウバイヒの確認試験を準用する。

**乾燥減量 (5.01)** 局外生規 2012 ヨウバイヒの乾燥減量を準用する。

**灰分 (5.01)** 局外生規 2012 ヨウバイヒの灰分を準用する。

**酸不溶性灰分 (5.01)** 1.0 % 以下。

**エキス含量 (5.01)** 局外生規 2012 ヨウバイヒのエキス含量を準用する。

**貯法** 容器 気密容器。

## ワキョウカツ

Aralia Root

ARALIAE CORDATAE RADIX

和羌活 和羌活

本品はウド *Aralia cordata* Thunberg (*Araliaceae*) の根である。

**生薬の性状** 本品はやや湾曲した円柱形～長円錐形を呈し、しばしば周皮を除いたものがあり、長さ 5 ～ 15 cm、径 0.5 ～ 1.5 cm である。外面は灰褐色を呈し、多数の縦じわがあり、皮目及び細根の跡が散在する。周皮を除いたものは、外面は灰白色を呈する。質は軽くやや柔軟で折りやすく、折面はやや繊維性である。横切面をルーペ視するとき、形成層付近は褐色、皮部は淡褐色を呈し、皮部には油道による褐色の細点を認める。

本品は特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

**確認試験** 本品の粉末 1.0 g にメタノール 10 mL を加え、5 分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液 5  $\mu$ L を薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にヘキサン/酢酸エチル/酢酸(100)混液 (30 : 10 : 1) を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに噴霧用バニリン・硫酸・エタノール試液を均等に噴霧し、105℃で 5 分間加熱するとき、 $R_f$  値 0.6 付近に紫色のスポットを認める。

**灰分** (5.01) 7.0 %以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 1.0 %以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ワコウホン

Osmorhiza Rhizome

OSMORHIZAE RHIZOMA

和薬本

本品はヤブニンジン *Osmorhiza aristata* Makino et Yabe (*Umbelliferae*) の根茎である。

**生薬の性状** 本品は仮軸分枝した根茎からなり、全長 2 ~ 8 cm、各分枝は円柱形を呈し、径 0.5 ~ 1.5 cm、各先端には円形にへこんだ茎の跡があるか、又は短い茎の残基を付けている。外面は灰褐色~褐色を呈し、輪節及び縦じわがあり、こぶ状の根の残基が多数ある。また、径 2 ~ 5 mm の短い根をわずかに付ける場合もある。質は軽く、やや折りやすい。

本品は特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや辛い。

**確認試験** 本品の粉末 0.5 g にヘキサン 5 mL を加え、時々振り混ぜながら 15 分間放置した後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液 10  $\mu$ L を薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にヘキサン/酢酸エチル混液 (4 : 1) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに希硫酸を均等に噴霧し、105°C で 5 分間加熱するとき、 $R_f$  値 0.5 付近に赤色~赤紫色のスポット及び、通例、その上辺部に重なった淡青色のスポットを認める。

**灰分 (5.01)** 6.5 % 以下。

**酸不溶性灰分 (5.01)** 1.5 % 以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ワニクジュヨウ

Boschniakia Herb

BOSCHNIAKIAE HERBA

和肉菘蓉 和肉菘蓉

本品はオニク *Boschniakia rossica* B. Fedtschenko (*Orobanchaceae*) の全草である。

**生薬の性状** 本品は扁平な円柱形で、長さ3～30 cm、径2～8 cmである。根茎は太い塊となっている。外面は黄褐色～黒褐色を呈し、三角形のりん片葉に密におおわれている。茎の先端には卵形ないし円柱形の花穂が付く。質はもろい。折面は黄褐色～黒褐色である。維管束は輪状に並び、不連続な環状を呈する。

本品にはおいがなく、味はわずかに甘く、後にわずかに苦い。

本品の中央部横切片を鏡検(5.01)するとき、最外層はクチクラでおおわれた表皮からなる。表皮細胞は1層からなる。皮層は柔組織からなり、細胞間に空隙がみられる。皮層の内側には維管束のように囲まれた楕円形～長楕円形の並立維管束が不連続な環状に配列する。髄は柔組織からなり、細胞間に空隙がみられる。

**確認試験** 本品の粉末1.0 gに水5 mL及び1-ブタノール5 mLを加え、15分間振り混ぜた後、遠心分離し、1-ブタノール層を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー(2.03)により試験を行う。試料溶液5 µLを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/メタノール/水混液(20:3:2)を展開溶媒として約7 cm展開した後、薄層板を風乾する。これに2,6-ジブromo-N-クロロ-1,4-ベンゾキノンモノイミン試液を均等に噴霧し、アンモニアガス中に放置するとき、 $R_f$ 値0.3付近に青色のスポット、 $R_f$ 値0.2付近に灰緑色のスポットを認める。

**乾燥減量** (5.01) 23.0%以下(6時間)。

**灰分** (5.01) 11.0%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 2.0%以下。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 35.0%以上。

**貯法** 容器 密閉容器。